

船用低硫黄燃料油としての品質確保に向けた対応について

石 油 連 盟

(一社)日本船用工業会

- 石油連盟と日本船用工業会は、船用低硫黄分燃料(S分0.5%以下)が供給された場合においても、現状と同様に船舶用エンジンが稼働するために必要な燃料油の性状値(動粘度や燃焼性に係る値など)等に係る技術的な意見交換を行うため、3月30日に両業界の専門家による「船舶用重油の性状全般の在り方についての意見交換会」(以下、「意見交換会」)を設置。
- 石油業界からは石油連盟会員各社の技術担当者が、船用業界からは日本船用工業会会員エンジンメーカー各社の技術者が出席。必要に応じ、専門的な知見を有するユーザー、関係者等も議論のメンバーに加え、引き続き品質のあり方について更に議論の精度を高めていくこととしている。
- 「燃料油環境規制対応連絡調整会議」タスクフォース(以下、「TF」)第3回会合において、資源エネルギー庁側から、需要・供給の双方にとってアベイラビリティを高めるために、低硫黄燃料の燃焼に係る実証実験を行なってはどうかとの提案があったことから、7月11日(火)に両省担当官及び両業界(石油業界会員各社並びに日本船用工業会及び海上技術安全研究所)の技術担当で打合せを実施し、上記提

案の実現に向けて、主として両業界の担当者間で技術的検討を進めていくこととなった。

○7月19日(水)に二回目の「意見交換会」を開催し、内航海運事業者等の船舶に係る専門家を招いて、内航船の燃料油加熱器等のオペレーション状況について意見交換を行うとともに、TF第3回会合において提案された低硫黄燃料の燃焼試験を行うために使用する燃料油やエンジンの選定などの試験方法等の議論を開始した。

○今後も試験方法等の議論を行うとともに、「意見交換会」についても引き続き定期的を開催して行く予定。